

「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界文化遺産推薦候補に決定

夢に向かって大きく前進

ばあんぎあー!!

市北部の勝浦地域に所在する、新原・奴山古墳群を含んだ「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、7月28日に国の文化審議会で、平成29年の世界文化遺産の登録を目指す候補に決まりました。

世界遺産とは1972年のユネスコ（国際連合教育科学文化機関）総会で決まった「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（世界遺産条約）に基づいて登録された文化・自然遺産をいいます。

玄界灘の沖合60キロメートルにあり、人々の信仰を受けている絶海の孤島「沖ノ島」。この沖ノ島への信仰は、古代祭祀の移り変わりや、現代まで継承されてきました。そして、この伝統を物語る非常に貴重な遺産が「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」です。その中でも、新原・奴山古墳群は、これらの伝統を育んだ、宗像海人族の存在を今に伝えています。

福津市 小山 達生市長

信じていました

すばらしい遺産の数々が世界に広がるきっかけをつかめたことを大変うれしく思います。今後も世界遺産の登録に向けて頑張ります。市民の皆さんの応援をお願いします。



声

勝浦地域郷づくり推進協議会会長 花田 勲さん

これからもみんなで頑張ります

国内推薦が決定し「よかった」という気持ちであふれています。これからも、古墳のある勝浦地域の魅力をたくさんの人に知ってもらえるように、地域でいっしょに頑張ります。



市観光協会ボランティアガイド 永松 春一さん

古墳っておもしろい

国内推薦の決定でさらに気が引き締まります。古墳を知ってもらうことをとおして、世界遺産登録に向けた市民皆さんのパワーを集めたいです。ガイドの一員として力が入ります。



今後の流れ

平成27年

9月頃 関係省庁連絡会議による推薦決定

9月末 推薦書暫定版をユネスコへ提出

平成28年

1月頃 ユネスコへ推薦書正式版を提出

秋 イコモスによる現地調査

平成29年

5月頃 イコモスによる審査結果の公表

6月頃 ユネスコ世界遺産委員会での審査・登録

今後は、国や世界遺産の専門家の指導助言を受けながら、推薦書をより良いものにするために検討を加えていきます。そして、その推薦書を平成28年1月末にユネスコへ提出します。提出した後、ユネスコの諮問機関であるイコモス（国際記念物遺跡会議）が推薦書の内容を調査します。また、同年秋には現地調査も行われます。そして、平成29年の5月頃には調査結果が公表され、同年6月に開催予定の世界遺産委員会において、世界遺産への登録の可否が決定します。

▼7月28日福津市文化会館に集まり、決定の連絡に喜ぶ市民の皆さん

